四季の営農ワンポイントアドバイス【園芸指導】

地温調節、雑草抑制、乾燥防止、病害予防となるマルチ栽培について

【指導員】　髙橋　佳津也（かづや）

令和5年度は消雪が早まり、春作業の早期開始が想定されます。しかし、春先は寒い日が続き、低温障害や霜害などが発生しやすくなります。

春先に農作物の播種や定植を行う際は、その後の生育量確保のために、畝の表面を覆う**マルチ栽培**が効果的です。

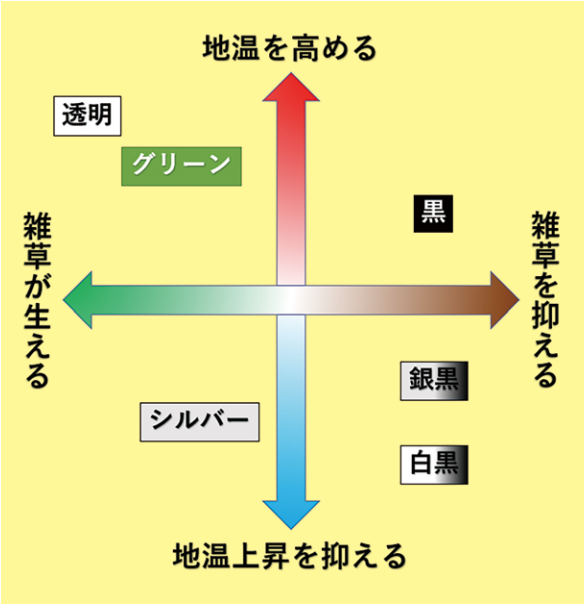
○効果

地温上昇や土壌水分保持、土壌固結や肥料流亡防止などフィルムの種類によって異なります。

透明マルチは光の吸収が良いので土が温まりやすく、**地温上昇**に効果的です。**黒マルチ**は**雑草の抑制効果**と**保温効果**に優れています。

シルバーマルチは光の反射効果でアブラムシやスリップス類に対する**忌避（きひ）効果**があり、夏季の**地温上昇抑制**にも有効です。

【マルチの種類と効果】



○規格

畝幅や栽植密度（株間、条間、二条・千鳥植えなど）に合ったものを選びます。畝の側面もカバーする必要があるため、例として畝幅60㎝で95㎝幅、畝幅90㎝で135㎝幅が目安となります。

○マルチング

雨上がり後など土が水分を充分に含んだ状態の時に行いましょう。耕起や整地は丁寧に行い、土の表面とマルチを密着させることが大切です（風に飛ばされないよう注意）。

【グリーンマルチ0.02㎜×95㎝】
（5月上旬のそら豆）

※生分解マルチ

通常のマルチと同じように畝を覆い、収穫間際になると微生物の活動により二酸化炭素、水に分解されます。その後はそのまますき込むことができ、回収作業や処分が不要。ただし、通常のマルチより土壌が乾きやすくなる点、長期保管はできない点、受注生産のため事前注文が必要な点に注意してください。

○最後に

他にも露地トンネルや不織布、防虫・遮光ネットを利用して畝全体を覆うことも効果的です。また、**アイスバリア**（250～300倍）の葉面散布は**栄養補給**をしつつ、**低温や霜害対策**になります。春先の天候から農作物を守り、初期生育確保に努めましょう。